

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

天平年間、惠明上人の手によって開基せられ、孝謙天皇の勅願寺として盛時には、寺内八丁四方に及び、六十六坊の末寺をもつ大伽藍であったが、応永年間の兵火で焼失。文明十三年当時の領主河野氏によつて再建せられ、現在の本堂はその時のもので唐様式の代表作として重要文化財に指定されています。

又当山には、浄土宗の開祖円光大師、二世聖光上人、三世良忠上人の自作の像があるところから三歳院と呼ばれています。又、空也上人が天徳の頃当寺を訪れ、三年後この地を去る時、村人が名残りを惜んでせめてお姿なりともうという懇願により自像を刻まれたのが、寺に伝えられる重要な文化財空也上人像であるといわれています。民衆教化の旅の空也上人像であります。

四国靈場第四十九番 浄 土 寺

愛媛県松山市
鷹子町1198

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

心に花を

花は虚空のいのち 花は海原のいのち 花は宇宙のいのち
花は人に語りかけている 人のいのちに語りかけている

花も鳥も草も木も みんなみんなわたしの友だち

花のことばに聞き入ろう 鳥のことばに耳傾けよう

草木の動きを見つめよう

みんなみんな自分のことばで話している

山川草木悉皆成仏

開け心の曼荼羅

四国霊場第五十番 繁多寺 愛媛県松山市
畠寺町32

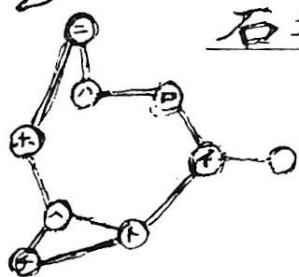
<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり



石手周辺



イハロイ 石手寺
ヘニハイ 風土記丘
トヘイサニワ 一遍生地
トヘイサニワ 道後公園
トヘイサニワ 道後温泉
トヘイサニワ 古河城
トヘイサニワ 松山城
トヘイサニワ 義安寺
トヘイサニワ 伊予津の宮

四国霊場第五十一番 石手寺 松山市
石手二丁目

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

「日々触れ合う縁を大切に」

物事は総て原因があり、条件が整って、結果が生まれます。佛教で言う「因縁」とはその事です。その内「因」はいつも、どこでも、誰もが等しく与えられる機会がありますが、「縁」はその人の接し方や考え方や行動ですから、色色と違ってきます。だからその結果は人それぞれに随分と違ってくるのです。

一粒の種があるとしましょう。これが「因」、しかし、やせた土地、雨や陽の恵みを受けない種は、いくら立派な種でも芽も出す事が出来ません。反対に、悪い種でも非常によい環境、つまり「縁」に恵まれると立派な花を咲かす事が出来るのです。私達は日々触れ合う縁を大切にし、真心をもって接する事が、自分自身を豊かに育て上げる結果となるのです。この様によき縁を得るには、日頃の深い信仰が必要です。

合掌

四国霊場第五十二番 太山寺

愛媛県松山市
太山寺町1730

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

南無仏 話羅伊亞 四字合成の 風吹かば

霧雲晴れて 弥陀ぞあらわる

北ヶ市 増 隆

(古歌)

四季の遍路

- 十方空 背負ひしまゝの 遍路かな
- 行脚僧 笠共々に 霞みけり
- 陽炎や 笠たゞ一つ ひたすらに
- 巡礼の 足の重さや はたゝ神 (雷)
- 果物に ふくらむ頭陀や 秋遍路
- 鈴ふるや 白衣の笠に 散る銀杏
- 新雪や 札所への道 一筋に

四国靈場第五十三番 圓明寺 松山市
和氣町一丁目
<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

この寺は行基の開基、弘法大師の御再興、嵯峨天皇の勅願所でありました。昔は背後に聳ゆる近見山（国立公園）にあり、七堂伽藍は甍を連ね、百坊が谷々にあって、信仰と学問修行の中心道場であった。再三の火災で古いものは一切焼失しましたが、本尊不動明王は、その都度火難を免がれた。

鎌倉時代に、大学僧凝然国師が、この寺の西谷の坊で「八宗綱要」を著わしたことは余りにも有名であります。

寺名の円明寺（俗称延命寺）は、松山市の四国五十三番円明寺と間違つて困る円明寺の称をやめて、俗称の「延命寺」を正式の寺名とした。

境内には「あせびの木」が沢山あって、春彼岸頃から約一ヶ月間可愛い花をつける。

伝説には、梵鐘の伝説。孫兵衛伝説。自覺法師伝説などがあります。

愛媛県今治市
阿方 636

四国霊場第五十四番 延命寺
<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

菩提心者是自心也。所到皆菩提場也。

(理智不二界会礼讃)

「今日彼岸、菩提の種をまく日哉」秋の収穫の喜びは、春の種まきに、秋には、春のおとずれにそなえて、種をまくこと忘れては、花も実もならないのと同じで、私達も、良い心田を耕し、菩提の種をまくことが大事であろう。菩提とは、迷いを断ちきつて得られた覺りの知恵であり、菩提心とは、無上の覺りを求めて、仏道を行ずる心であって、覺りと覺りを求める心とは、自心を措いては、他にはないのであって、山林寂靜の淨地のみが、覺りの場ではなく、菩提心を發す事によつて、私達の生活の場、そのものが覺りの道場であると教えています。

四国靈場第五十五番 南光坊

愛媛県今治市
別宮町3-1

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

山には山神が海には龍神がいられる。山や海が礼拝祈願の対象なるのはこのためで山や海それ自身に宗教行事の性格を持つている。

山神の住む山は普通の山でなく高山靈峰であり龍神の住む海は瀬戸の内海でなく果しなく広がる大海原の厳しい大自然でなければならない。

辺地といわれた当時の四国は厳しい自然環境であり大師は大自然の中に身を投げ入れ自受自行の修行をされた。この御遺跡が八十八ヶ所の札所である。

太龍寺嶽の南舍身、室戸岬の御藏洞は札所の最たる靈跡で大師の靈的行動がここから発動したのである。

四国八十八ヶ所は今も自然の残る札所が多いが、この札所にこそ大師の御靈徳が生きている。これら札所を苦労しながら巡拝するところに同行二人の信仰が生れ大師の靈徳に触れることが出来る。

大師御入定一千百五十年、大師の靈格に触れるのであれば大師の苦行体験を少しでも、この身で味わうことから出発せねばならない。

四国靈場第五十六番 泰山寺

愛媛県今治市
小泉 645-2

<四国八十八ヶ所靈場会発行>